

8位！やまとなでしこ

スキーオリエンテーリング世界選手権大会 リレー 2007年3月2日 ロシア モスクワ

木村佳司

日本女子が世界選手権 8 位の快走を見せ、中堅国の仲間入りを果たした。最後までベラルーシの追撃を受けたが、ギリギリ逃げ切った。

女子リレー結果

1	ロシア	1:17:30
2	フィンランド	1:19:53
3	スウェーデン	1:24:35
4	チェコ	1:31:40
5	リトアニア	1:34:56
6	ブルガリア	1:40:34
7	ウクライナ	1:46:45
8	日本	1:58:58
	(酒井佳子-白鳥桂子-元木友子)	
9	ベラルーシ	1:59:10
10	アメリカ	2:18:55
11	カザフスタン	2:46:33



女子リレースタート。日本女子の1走は酒井佳子。スタート地区ではダブルポール滑走で各国選手と勝負



2走・白鳥から3走・元木友子ヘタッチ



日本女子の3走・元木友子のフィニッシュ。後ろに迫るベラルーシを振り切った。

中堅国へのステップ

日本女子のエース・酒井佳子が1走。強豪国に離されない範囲で流れに乗りたい。実はそう考えているのは日本だけではない。ベラルーシもアメリカも同じ考えだ。そんな中堅国のエースがひしめく中、酒井は9位で戻ってきた。

アメリカのアレクサンドラにはまともにもやられてしまった。

越えた。スイスのメンバー不揃いもあり日本女子は8位に入った。



優勝したロシア女子チーム
オルガ / タティアナ / ナタリア

日本女子2走の白鳥桂子は安定した走りを見せる。アメリカを抜くが、ベラルーシ、ウクライナに抜かれてしまう。この時点で10位。ただこの時点では7位のブルガリアまでまだ3分半の差。

日本女子3走は元木友子。まずは14秒前にチェンジオーバーしたベラルーシを追撃する。結局ベラルーシを抜き、12秒差をつけてフィニッシュラインを



女子リレー用地図の一部。クロスカン트리ースキー場のピステ道を多用した高速コース。

日本男子 堀江快走

日本男子の1走はエース堀江。20チーム中9位という快走を見せた。タイムもトップ比110%という好レベルで、ノルウェーやイタリアを上回っている。まさに世界レベルで戦っている状況だ。

しかしながら今回の日本チームにはリレー時点で男子2名しかおらず、仕方なく女子の高橋美和を男子クラス3走に投入した。このためそのあとの成績は落ちるいっぽう。しかし堀江の作った貯金が功を奏し、アメリカ男子チームには辛うじて勝つことができた。



中間スペクターターズ区間を通過する堀江守弘（日本男子第1走者）
ここまでは強豪に混じて戦っている。

男子リレー結果

1	ロシア	1:45:32
2	スウェーデン	1:49:14
3	スイス	1:54:12
4	チェコ	1:54:12
5	フィンランド	1:56:03
6	ウクライナ	1:56:20
7	リトアニア	1:59:08
8	ノルウェー	2:02:16
9	ブルガリア	2:03:55

10	イタリア	2:14:54
11	オーストリア	2:17:52
12	ラトビア	2:19:33
13	ドイツ	2:19:51
14	ベラルーシ	2:29:45
15	フランス	2:30:43
16	日本	2:42:11
		(堀江守弘-元木悟-高橋美和)
17	アメリカ	2:46:26



優勝したロシア男子チーム
アンドレイ / エドワード / キリル

ロシアのための大会

強すぎる！強すぎるロシア。地元の特権がある主催国の選手が活躍するのはよくある話。しかしここまでメダルを独占していいのだろうか。

今回のヒーロー/ヒロインは間違いなく金メダルを4個さらっていった男子のエドワード（ロシア）と女子のタティアナ（ロシア）。

しかしロシアはこの二人だけじゃない。若いキリルもエドワードのすぐ後ろにつけている。絶対的な強さと層の厚さがロシアにはある。

大会終了後のモスクワ州のレセプションで地元VIPは誇らしげなこと。



個人戦のメダル男女あわせて6個をすべてかささらっていったロシアのエースエドワード（左）とタティアナ（右）

今回の世界選手権は日本で開催されることになっているが、日本でも地元選手に大いに活躍してもらいたい。ヨーロッパ、ロシアの連中をギャフンと言わせて見たい。

今回ロシアに悔しい思いをさせられた国々も、次の世界選手権に向けて

視眈々と対策を練ってくるに違いない。

事実、閉会式後のパーティでは、競技を忘れてみんなで跳ねるものだが、そのパーティの席でも日本についての情報を根ほり葉ほり聞かれたのだった。



次回開催地の日本にIOF旗が渡った。

モスクワ郊外の生活

世界選手権に参加するため、モスクワ郊外でおよそ1週間滞在した。

モスクワ郊外の森は気が向いた時にロングライドできるトレイルがある。決して競技のためではなく、地元の犬の散歩道として、スキースカッシュとして使われている、時にはウォッカを片手に森の雪道を歩いている集団がいる。

まだまだ社会資本には恵まれていないモスクワだが、スキーマに乗って森を走ることに関しては非常に恵まれた環境だった。

(木村佳司)

